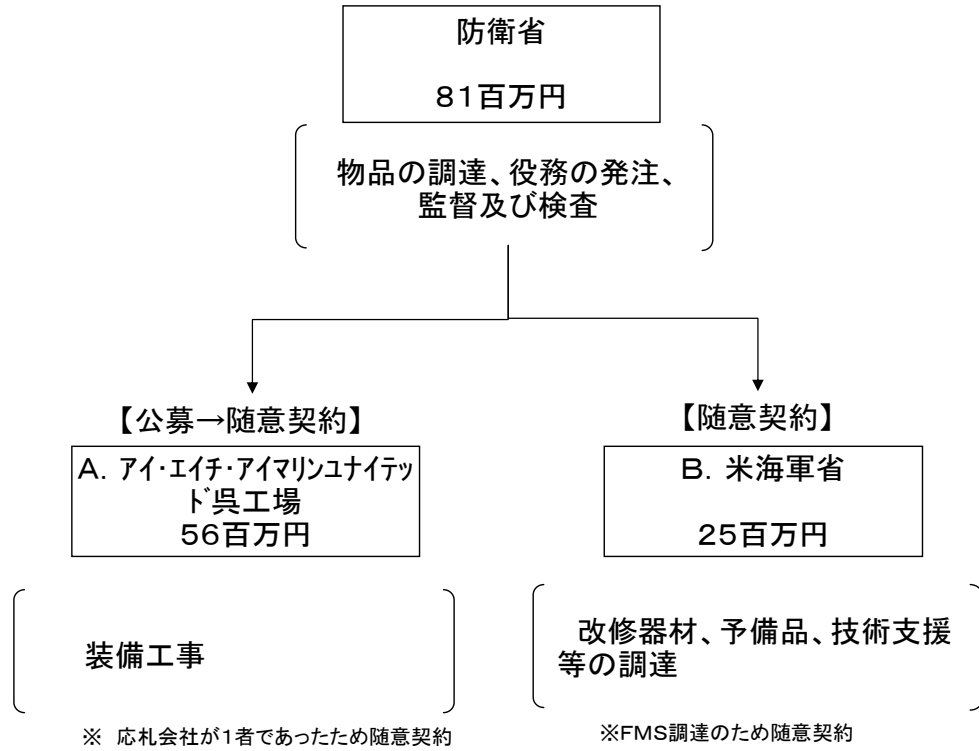


平成23年度行政事業レビューシート (防衛省)

<b>事業名</b>	むらさめ型護衛艦等の短SAMシステムの機能向上	<b>担当部署</b>	経理装備局・防衛政策局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	事業開始：平成16年度 事業終了：平成24年度	<b>担当課室</b>	システム整備課 艦船武器課 防衛計画課	システム整備課長 高橋 直人 艦船武器課長 平上 功治 防衛計画課長 青柳 肇			
<b>会計区分</b>	一般会計	<b>施策名</b>	防衛装備品等の整備及び維持(防衛装備品整備)				
<b>根拠法令(具体的な条項も記載)</b>		<b>関係する計画、通知等</b>	平成23年度以降に係る防衛計画の大綱 (平成22年12月17日 安全保障会議決定・閣議決定)				
<b>事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	シースキミング性能 <sup>*</sup> の向上が著しい対艦ミサイル(ASM)に対する阻止効果を得る必要があること及び現有の短距離艦対空ミサイル(短SAM)のRIM-7Mが価格高騰のため継続調達に困難であることから、「むらさめ」型の護衛艦を改修し、安価かつ高性能な新開発の短SAMであるESSM(Evolved Sea Sparrow Missile)を導入する。 <sup>*</sup> 海面上を低高度で飛行できる性能						
<b>事業概要(5行程度以内。別添可)</b>	ESSMの導入は、護衛艦9隻(既成立分8隻)を対象としているが、定期修理時に改修を行う必要があることを考慮し、そのうち、平成19年度1隻、平成21年度1隻に対して改修を実施した。ESSMは、RIM-7Mと比較して、運動性能、目標追尾能力等が一段と向上しており、特に、現有ミサイルに比して超低空・超高速ミサイルに対する阻止効果が大幅に改善されている。						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・執行額(単位:百万円)</b>		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	411	491	81	418	56
		補正予算	0	0	0	0	
		繰越し等	0	0	0	0	
		計	411	491	81	418	
	執行額	471	496	81			
執行率(%)	114.6	101.0	100.0				
<b>成果目標及び成果実績(アウトカム)</b>	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(24年度)
	対象艦艇9隻に対し、ESSM発射機能を付加することにより、対空能力の向上を図る。	成果実績	隻	4	0	1	9
		達成度	%	77.8	77.8	88.9	
<b>活動指標及び活動実績(アウトプット)</b>	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	対象艦艇9隻中8隻に対する機能向上が終了している。24年度までに9隻全てに対する機能向上を図る。	活動実績(当初見込み)	隻	4	0	1	0
						( 1 )	( 0 )
<b>単位当たりコスト</b>	486,477(千円/艦)		算出根拠	22年度装備艦(さみだれ)実績 改造用器材調達費430,477(千円)+装備費56,000(千円)			
<b>平成23-24年度予算内訳</b>	<b>費目</b>	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	編成装備品費	418	56	24年度は装備費のみであり、機能向上用器材の調達がないため。			
	計	418	56				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>1. 必要性 性能の向上が著しい対艦ミサイル(ASM)に対する阻止効果を得る必要があること及び現有の短距離艦対空ミサイル(短SAM)のRIM-7Mが価格高騰のため継続調達に困難であることから、「むらさめ」型の護衛艦を改修し、安価かつ高性能な新開発の短SAMであるESSM(Evolved Sea Sparrow Missile)を導入する必要がある。</p> <p>2. 効率性 本事業は、監督官による工事内容の確認を行うことにより、効率的に取得されている。</p> <p>3. 有効性 ESSM発射機能を付加する機能向上を行うことにより、比較的安価かつ高性能な短SAMであるESSMを発射することができる点で有効である。</p> <p>4. 総合評価 本事業は機能向上を行うことにより、ESSMの発射が可能となるものであり、護衛艦の対空戦能力を維持するために必要である。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
抜本的改善	点検結果においてコスト低減が見受けられないため、契約実績の分析等を行い効率的、効果的な予算要求、予算執行に努める。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
本事業は、海自として保有すべき各種武器を購入する上で必要不可欠な経費であることから、平成23年度も引き続き要求することとした。			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

**費目・使途**  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

A. アイ・エイチ・アイ マリノナイット 呉工場			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
編成装備品費	直接材料費	} 56			
	加工費				
	直接経費				
	一般管理費				
※契約は一括のため費用毎の金額の記載は困難					
計		56	計		0
B. 米海軍省			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
編成装備品費	改修器材	} 25			
	予備品				
	技術支援等の調達				
※契約は一括のため費用毎の金額の記載は困難					
計		25	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	アイ・エイチ・アイマリンユナイテッド呉工場	装備工事	56	公募 → 随意契約	98.2
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	米海軍省	改修器材、予備品、試験器材、ソフトウェア、図書、トレーニング、技術支援の調達	25	随意契約	100
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					